

令和4年度 第4回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ: 不登校児童生徒の社会的自立を目指して

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、不登校支援団体の代表者などの皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和4年12月19日(月) 午前10時40分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 8名

(主な意見等)

- 不登校の出口にさしかかる中高生を対象とした学習支援を行っている。県立高校の全日制についての入学試験は、不登校の子にもチャンスが広がるような制度が必要。
- 年齢層の低い小中学生の不登校が増えていると感じる。行政など皆様の支援を頂き、子どもが自己肯定感を持てるようになり、自分達の居場所が増えるよう取り組んで行きたい。
- 不登校になるにも、そこから立ち上がるにも一定の法則があるのではないと思う。不登校の問題の解決の為の支援が社会的に進められることを願っている。
- 事後対策ばかりでなく未然防止の対策が必要。少人数学級は子どもの教育環境、先生の労働環境を変える方策の1つである。
- 保護者同士などの会話が出来る会をひらいているが、どこに相談して、どんな助けがあるか分からないと聞く。学校・行政から情報提供をしていただけたらと思う。
- 中学生の頃に全欠席だった生徒も、環境の変化を受け入れながら自分も変わってくると感じている。
- 体験学習を取り入れながら気持ちをリセットするよう取り組んでいる。しかし、不登校の子どもは気持ちも不安定なことがあり、そういう意味でも不登校となる前に防ぐことが重要。
- 長期のビジョンをつくって取り組んでいる。例えば教師の意識改革や教育支援センターと学校の連携や若い教師の発表の場の確保などの提言があるので参考になればと思う。
- 体験学習など世の中には多様な価値観があることを知ってもらい、そして自己肯定感を持ってもらうことなど、問題が難しくなる前に教育として取り組む必要があるのではないか。
- 高校の不登校特例校の設置を県で検討出来ないか。また正規の教職員の確保や校則の見直し、不登校の当事者との信頼関係を深める視点での取組が必要ではないか。

(知事(県)の主な発言)

- 不登校の子どもたちの可能性をどのように保障し、実現させていくかを皆様の力を頂きながら考え、取り組んで行きたい。
- 感受性が強い部分などは発達障害とも共通する部分があるように感じる。その子の能力をどのように引き出すかという問題意識が皆様と共通にもてるのかなと思う。
- 社会の多様化に子どもの価値観や学校の価値観が追いついていないのではないと思う。頂いた提案などをもとに改善点等を考え、皆様にもまた提示したい。

